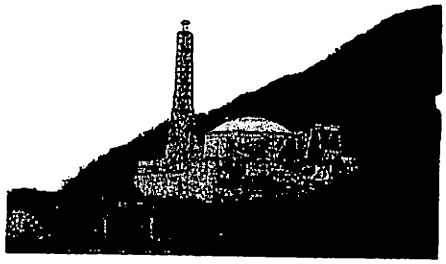
『山のかなた』

監督：池島　芙紀子　2009年 / 日本 /76分

http://www.page.sannet.ne.jp/stopthemonju/home/yamatirasi.html



【BACKGROUND】

1995年12月8日にナトリウム火災事故を起こして以来止まっていた「もんじゅ」が5月6日運転再開された。多くの人が、「もんじゅ」なんてもう動かないよ、と呑気に考えている中で。一方、2007年7月、中越沖地震が柏崎刈羽原発(1～7基)を直撃し、原発震災の恐怖が現実のものとなった。なんとか大惨事を防ぎたいという切なる思いで、映画作りを決心したのが2008年1月。お金も人手も足りない中で周囲の反対を押し切ってのスタートだった。

「なせば成る」という楽天的性格と、「今やらないと後悔する」という使命感がいつも私を支えていた気がする。反核反原発運動を始めてから30年近い月日の間に築いてきた全国の人たちとの協力関係と、身近に撮影と編集を担当してくれるスタッフがいたからこそ完成できたのだと思う。

『山のかなた』は、「もんじゅ」や「原発震災」の問題を身近に引き寄せ、放射能ヒバクの恐ろしさを実感することで大惨事を防ぐ方法を見つけたい、という願いを込めて創った。第一章の「もんじゅ」と第二章「再処理」を通して、核燃料サイクル政策の無意味さとプルトニウム利用の過ちを明らかにし、第三章「ヒバク」では、原爆でも原発でもヒバクの恐怖に変わりはないこと、原子力の平和利用という表現がいかに犯罪的かを示した。第四章「地震と原発」では、文字通り、いつ起きてもおかしくない原発震災への警告を、第五章「代替エネルギー」では、日本のエネルギー政策の過ちと今後の課題を提起した。

音楽は坂本龍一さん、コカリナ奏者黒坂黒太郎さんの協力を得、プロローグには池島真由美さんにオリジナル曲をピアノで演奏して頂いた。画面には各地の美しい日本の風景を折り込んでいる。

【STORY】

2008年早春、私たちは事故時の風向調査のため「もんじゅ」のある福井県敦賀半島の白木浜から風船を飛ばした。これを拾った若者たちとの交流が始まり、次々とわき起こる若者たちの疑問を解くため、一緒に学びの旅を重ねていった。敦賀の「もんじゅ」の見学、再処理工場のある青森県六ヶ所村、さらにヒロシマの原爆資料館、各地の自然エネルギーに取り組む人たちへのインタビュー。

やがて若者たちは、長年苦闘してきた人たちの思いを知り、さらにヒバクの恐ろしさ、原発震災の恐怖を知った。理解が深まるほど、毎日のささやかな幸せが砂上の楼閣にすぎないことを思い知らされる。

若者たちに未来はあるのか。破滅を防ぐにはどうしたらいいのか。原子力に依存しない暮らしは実現できるのだろうか…。答えを探して旅は続く。

監督　池島　芙紀子

【PROFILE】

池島　芙紀子

監督

1939年　大阪市天王寺生まれ。幼児期に母親を戦争で失い、多感な少女期に原爆写真集を見て衝撃を受ける。

1982年　反核反原発の市民運動を始める。

1990年「ストップ・ザ・もんじゅ」と「自然環境センター」を設立。

2000年「脱原発政策実現全国ネットワーク」を結成、事務局を務める。

【CONTACT】

自然環境センター＆ストップ・ザ・もんじゅ

〒573-0028

大阪府枚方市川原町1-5

Tel&Fax：072-/843-1904

stopthemonju@sannet.ne.jp

【[illegible]】

『もんじゅー明かされた真実』38分

・詩の朗読　吉永小百合

・ナレーション　坂本龍一

【[illegible]】

『世界の高速増殖炉の事故と現状』

小林圭二

『危険のかたまり 高速増殖炉もんじゅ』

ストップ・ザ・もんじゅ

『究極の無駄　高速増殖炉開発』

ストップ・ザ・もんじゅ

【[illegible]】

『ちょっとまって電磁波社会』

自然環境センター

「第7回 棘和映画祭パンフレットより転載